

令和7年度 第1回スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時	令和7年6月25日（水） 10:00～12:05
場 所	第一委員会室
参 集 者	委 員／中條 庸右、齋藤 隆、堀 俊一、齋藤 勉、三浦 修一、 小林 伸、大滝 美樹、穂積 祥、伊藤 真実 欠 席／佐藤 寿実子 酒田市／赤坂教育長 スポーツ振興課：樋渡課長、中山課長補佐、高橋主査兼係長、 阿部主査、乙坂主査兼係長、山崎調整主任 学校教育課：高橋部活動改革総括コーディネーター
配布資料	・ 審議会委員名簿 ・ 資料1 令和6年度の事業評価・令和7年度の事業概要について ・ 資料2 酒田市スポーツ推進計画及び酒田市体育施設整備方針の 中間見直しについて ・ 資料3 令和6年度スポーツ振興課所管施設利用状況について ・ 資料4 令和6年度「酒田市のスポーツの推進に関する市民アン ケート調査」の概要 ・ 追加資料 中学校運動部活動改革に関する資料

【委嘱状の交付】

- ・ 委員全員に、赤坂教育長より委嘱状を交付（欠席者を除く）。

1. 開 会（事務局）

【会議の成立について報告】

- ・ 「酒田市スポーツ推進審議会に関する条例」第6条第1項により、審議会は、委員総数の過半数の出席が要件となっている。本日の審議会については、委員総数10名のうち、出席者9名となっており、審議会が成立していることを報告する。

2. あいさつ（教育長）

- ・ ただ今、委員の皆様へ委嘱状を交付させていただいた。任期は、令和9年3月31日までの2年間となる。本市のスポーツ振興にお力添えを賜りたいので、よろしくお願いしたい。
- ・ 令和7年度も早くも3か月が過ぎようとしている。今年度は、東京2025世界陸上競技選手権大会と、第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025の2つの大きなスポーツイベントが開催される。特に第25回夏季デフリンピック競技大会には、本市からも3名の選手が出場することと思う。活躍を期待し、みんなで応援したいと思っている。
- ・ 本市における今年度の目玉となるスポーツイベントは、なんと言っても「第14回湊酒田つや姫ハーフマラソン大会」である。ハーフと10キロの部で出羽大橋を渡るコースへと変更した。天気が良ければ鳥海山、それから日本海を見渡せる素晴らしいロケーションのコースとなる。また、参加料金の値下げに加え、新たに5キロの部を新設し、市民がより参加しやすい、交流人口の拡大に向けた酒田市を代表するイベントとして、大いに盛り上

がりを見せてくれることを期待している。

- ・本日の審議会では、令和6年度の事業評価及び令和7年度の概況と、今年度中間見直しを予定しているスポーツ推進計画及び体育施設整備方針について審議をお願いしたい。スポーツ推進計画については、策定から6年が経過したため、第2期山形県スポーツ推進計画を参考にしながら、市の実情や地域のニーズに即した内容へと、中間見直しを行う。体育施設整備方針については、策定から5年が経過したため、スポーツ推進計画の見直しに合わせて、体育施設のあり方を見直すものである。皆様からそれぞれの立場で、忌憚のないご意見を賜るよう、よろしくお願い申し上げます。

【会長、副会長の選出】

○事務局

協議に入る前に、審議会に関する条例第5条第2項に基づき、この審議会の会長と副会長を選出したい。会長と副会長については、委員の互選ということになるが、いかがか。

⇒委員

事務局案はあるか。

⇒事務局

事務局案ということでご提案があった。事務局案は会長に市スポーツ振興会会長の中條委員を、それから、副会長には市スポーツ協会会長の齋藤委員をお願いしたいと考えているが、いかがか。

異議がないため、会長は中條庸右委員に、それから副会長は齋藤隆委員をお願いしたい。

【会長、副会長あいさつ】

【各委員自己紹介】

【職員自己紹介】

3. 協議（進行：会長）

【審議会の持ち方について】（事務局説明）

- ・この審議会は、年間で3回の開催を予定している。
- ・第1回目の審議会（今回）は、平成31年3月に策定した酒田市スポーツ推進計画に基づいて、4つの基本目標に沿った形で昨年度の取り組みと、今年度の取り組みを資料としている。今回は、各項目についてご意見をいただきたい。また、今年度、酒田市スポーツ推進計画及び酒田市体育施設整備方針の中間見直しを予定しており、見直し概要を資料としているので、ご意見をいただきたい。
- ・第2回目の審議会は、10月頃の開催を予定しており、今年度事業の進捗状況と、来年度の予算要求に係わる内容について委員の皆さまに報告し、意見を伺う場としたい。
- ・第3回目の審議会は、2月頃の開催を予定しており、今年度の取り組みと、来年度の取り組み予定について報告する。

（1）令和6年度の事業評価について及び令和7年度の事業概要について

<基本目標1 誰もが楽しめる生涯スポーツの推進【資料1-1】>

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】なし

＜基本目標 2 感動と活力に満ちた競技スポーツの推進【資料 1-2】＞

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】

○委員

トップレベルのスポーツに触れる機会について、市内体育施設で毎年開催される全国大会規模の大会がなかなか開催されていない状況にある。昨年、例えば野球の大きな大会が鶴岡市で行われたが、それは施設の整備をすれば酒田市でも開催が可能なのか。または人とか予算とか、あとは周りの宿泊施設とかをもっと全体で考えていった方がよいのか。クルーズ船が来たときには、人でいっぱい賑わって、一過性なのだが、スポーツでいうと、かなり長い目で準備していかなければいけないところもあると思う。施設整備もちろんそうだが、要因は、例えばどういう部分だと思うか。

⇒事務局

・スポーツ振興課としては、市民に対してスポーツ活動の環境をどう整備すればいいのかを考えた場合に、人口減少に伴って、施設が多いというところは間違いない。ただ、多いから、縮小していくかという事と、老朽化しているところをどうするかという事は別の話だと思う。縮小しながら改修していく必要はあるだろうと思っている。今年、光ヶ丘野球場の人工芝化を予定している。照明の整備では、光ヶ丘テニスコートや球技場なども、照明の改修を検討している。ただ、野球場の照明については、日中の利用人数や夜間の利用人数を加味して検討した結果、今後改修する予定はない。

・トップレベルのスポーツを呼び込むというのは、スポーツ協会や各競技団体があるので、輪番で、例えば東西の大会を交互にやっているところに山形県が入る。各都道府県のスポーツ協会が中心になるわけだが、その中に県レベルの競技団体がある。例えば、野球、バスケ、それぞれの県の連盟と、その上の全国の連盟で大会開催の調整がある中で、スポーツ協会を通じて、今後 3 か年くらいの東北大会・全国大会の予定等を把握しながら、それを呼ぶから、施設を改修するのではなくて、当然、施設の改修が先だと思う。全国大会規模の大きい大会を呼ぶと改修しなければならないという考え方でいくと、全国大会を呼べば改修するのかとなる。財源も考えなければならないので、まずは市民のスポーツ環境を作っていく。その中で、大規模改修した I N P E X 酒田アリーナは利用人数が多くなっている。来年はプロスポーツの興行を、この I N P E X 酒田アリーナで開催したいという話もある。新しくなった施設という情報があったかもしれない。当然、改修というのは大きい大会を呼ぶ要因になると思うが、全ての施設を改修するわけにはいかないなので、その辺は縮小しながらも、予算と折り合いをつけて改修するような考え方で進んでいるところである。

○委員

以前、国体記念体育館で卓球の大会があったときに、園児を呼んでいただいて、有名な招待選手、オリンピック選手が来た。今の I N P E X 酒田アリーナで呼ぶとなったときに、呼べなくはない環境だと思う。

⇒事務局

大きい大会となると観客数の問題がある。主催者側の課題になるが、観客が多い大会開催はそれなりの費用がかかる。

○委員

・改善の余地がある部分では、講演会の参加人数が少ないということ。当協会としても、表彰式の後に講演会の参加をお願いしたら、さっといなくなる状況であった。逆に講演会をしたあとに表彰式をすとか、もしくは、地元の優秀な子ども達からの話を聞くという部分を加えると、保護者が参加するのかわかりたりする。全国的に有名な人を呼ぶと、100万単位の金額がかかる。100万、150万円の謝金の講師は減多に呼べないので、各団体との連携ではあるのだが、何周年記念であるとか、そういうときは可能かもしれない。地元の人達を活用する工夫なども必要だと思う。

・数値目標を見て、国民スポーツ大会というのは非常に多くの種目がある。ウエイトの場合、競技がウエイトであり、種目はスナッチとジャークである。陸上は、陸上競技であって、種目が100m、200mなどと考えると、この出場種目という考え方はどうなんだろうと思う。次の中間見直しのところでも出てくるのだが、その考え方でいいのか。体操は一人で何種目も出場する。考え方としては、競技なのかと思う。大きい団体が出ると人数が増えるわけだが、競技団体数と人数という捉え方でもいいのかと思う。なぜこんなに人数が多いのか言われたら、バレーボールチームが出たからという説明はできるわけなので、競技団体数というようなことなども、一緒に考える必要があるのかと思っている。

⇒事務局

KPIを設定するにあたり、担当課の考えのほか、全庁的な考え・意見もいただくため、今の意見も参考にさせていただきながら、これからの推進計画の見直しの中で、変えられるところは説明がつくような形で進めていきたい。

＜基本目標3 スポーツによる賑わいとまちづくりの推進【資料1-3】＞

(資料に基づき、事務局説明)

【質疑応答】

○委員

マラソン大会で出羽大橋を渡る、そして教育長の話の中にも目玉ということがあった。どうしても議論するときに、マンネリ化というか、プラスしていく、イベントを上げていくというのが難しい中で、ワクワクするような出羽大橋のコース、それだけでも素晴らしいことだと思う。何年経ってもマンネリ化だけはならないような工夫をすることが大事だと思う。

○委員

つや姫マラソン大会のことは、なんとか園児が参加できないかとずっと思っていた。小さいときの家族での体験が、その後大きくなっても、何かのきっかけになることがあるので、ぜひファミリー部門を設けてほしい。もちろん、ボランティアの問題とか色々なことがあると思うが、ぜひお願いをしたい。

⇒事務局

・コロナ前は1,000メートルと3キロの部に、小学生と中学生が出れる大会であった。その後、10キロとハーフは日本陸連の公認コースということで、そこに限定して開催してきたわけだが、今大会から市陸上競技協会の調整がつかないということで、公認コースを申請しなかった。ただ、今まで日本陸連の登録者がだいたい100人ちょっとくらいで、逆に酒

田市民の参加が、以前800人くらいだったのが200～300人に減ってきたというところもあり、やはり交流人口の拡大も含めて、市民が楽しめる大会ということで、公認を止めたほうがいいという判断をさせていただいた。

・おかげさまで、6月1日から募集をしてまだ3週間、4週間目に入るが、昨年ベースと比較して1.5倍くらいの申し込みがある。去年1,300人ちょっとで、1.5倍になれば、ひょっとしたら本大会は過去最高の人数になるのかなというところで期待している。加えて来年、ファミリー部門とか、3キロのコースとか、中学生が3キロまでしか出れないというところはあるのだが、中体連の三浦会長とも相談をさせていただきながら、距離の設定をしたい。実際、今のハーフのコースは、当時、日本陸連の検定員の方から5,000人近くは走れるコースだというお墨付きをいただいている。参加者が5,000人になると、かなりのボランティアスタッフの協力が必要となる。今年は2,000人を超えることを目標に、準備を進めている状況である。

○委員

東根市のさくらんぼマラソン、あれは1万人近い参加がある。うちの孫が3キロの部に出場したのだが、小学4年生である。中学生は3キロまでと通常言われているが、東根市は小学生でも3キロ走れる。小体連が関知しない大会というか、そういう形でやっている。今年5キロの部を増やして、参加は高校生以上のみ。それは、中体連で決めている3キロ以内という制約、それが外れれば中学生でも出れる。無理をして走れとは言わないが、走りたいという人がいれば、10キロはちょっと無理だけど、5キロなら走れるというと、以前走っていた市民の参加が増えてくるのかと思う。

<基本目標 4 安全安心なスポーツ活動のための環境整備【資料 1-4】>

(資料に基づき、事務局説明)

【質疑応答】

○事務局

今の資料の中で、施策としての現状評価の菱形の2番目、電機鉄工「フィールド」と書いてあるが、正しくは「グラウンド」であるので訂正願う。

○委員

光ケ丘野球場のエアコン設置工事について、中学校の大会では熱中症対策としてエアコン設備がある会場で、何かあったときに生徒を運び込む場所が必要ということで、光ケ丘野球場を使用させていただきたい。今後も県大会はエアコンのある施設しか使わないとなってきた。

<基本目標 1 から基本目標 4 まで通して>

【質疑応答】

○委員

2点伺います。「デフリンピックの機会を活用して」とあるが、具体的な活用の考え方を伺う。2つ目、北の若。頑張っているののだが、幕下ではなかなか支援が集まらないようで、改めてこの環境について検討すべきである。現時点でどのような検討をするか、伺いたい。

⇒事務局

・毎年、スポーツ推進委員会で、庄内の大会、県の大会、全国の大会の3つの研修会に参加している。加えて、酒田市独自の研究協議会という研修会をやっているのだが、その中で障害者スポーツとは、どういうものなのかということ、スポーツ推進委員会の中で学ぼう、勉強しようという内容をここ数年で実施してきた。去年はボッチャ競技者で、障害者の方の講演会を予定していたのだが、調整がつかず、阿部亮監督の講演を実施した。今年度、11月からデフリンピックの大会が日本で開催されるが、酒田市から3名が出場を予定している。スポーツ推進委員会の活動の中で、その3名の壮行会をやってあげたいと考えている。これは、来月か再来月くらいで関係者と調整をしている。11月の大会終了後に、ぜひスポーツ推進委員会の中の研修会、これはスポーツ振興会も含めて、パネルディスカッション的なことをやり、市民も巻き込んで障害者スポーツの普及を踏まえ、お知らせしたいということで準備をしている。コーディネーター役を教育長にお願いしている。

・北の若については、プロスポーツの中では、アランマーレ、それから石垣雅海選手の後援会というのが実はあって、なぜこの北の若だけが行政でやらなければならないのかというところが、色々各方面からお話をいただいている。基本的には行政でやるものではないのかなと考えている。今、北の若を応援する会ということで、スポーツ振興課で事務局を担っているわけだが、北の若を支援する会、タニマチの会ということで、市内企業で事務局を担っている。市内企業の事務局の方と調整をして、やはり統一した方がいいか、行政でも色々なところから言われているので、ぜひ市内企業とか、あるいは相撲協会とか、市スポーツ協会を持てないかとか、そういったことを少し検討していきたいということで、今、市内企業の事務局の方に動いていただいている状況である。

○委員

アランマーレについて、山形県がホームということで色々な会場がある。酒田市でスタートしたということで、ミライニのパブリックビューイングであるとか、色々と事業をしているようである。例えば、ジオパークの関係で市職員が青いポロシャツを着ている。以前にアランマーレのポロシャツも着たような記憶がある。やはりみんなで応援する雰囲気を作っていきたいと思ったときに、中心となるのはどこかと思ったときに、発信元が市役所だったら、他の公共機関もやりやすいと思う。学校でも、もし市でやっているのであれば、一緒にできるかとか、市全体で盛り上げる機運を高められればよい。やはりプロスポーツがある市はなかなかなく、酒田市としてアランマーレは大切にしていきたいチームだと思う。

⇒事務局

天童市はホームタウン、酒田市はマザータウンという位置付けで今やっていて、また協定内容なども見直しをしたうえで、協定を締結している。一つは、市内企業内にアランマーレの後援会がある。そこと一緒に連携して、ミライニの取り組みなどをやっているのだが、やはり気運、盛り上がりという部分では、委員がおっしゃったように、そういったところも考えていかなければならないだろうと思う。この辺は、後援会に少し相談させていただく。北の若もそうであるが、やはり勝っていけば、おのずと機運も上がっていくのかと思うので、そこを含めて検討したい。

（２）酒田市スポーツ推進計画の中間見直し 及び

酒田市体育施設整備方針の中間見直しについて

＜酒田市スポーツ推進計画の中間見直し【資料 2-1～2-4、資料 2-6】＞

(資料に基づき、事務局説明)

【質疑応答】

○委員

資料 2-1 (2) ③中学校運動部活動改革の推進について、ここに入れていただきありがたい。自己紹介のときにお話ししたが、部活動改革ということで進めている。この部活動改革といったときに、スポーツ環境整備と教員の働き方改革という二本柱で行っているので、スポーツ推進といったときに、この文言でいいのかが1点引っかかっている。例えば、地域移行であるとか、今度、地域展開という言葉が出てきているので、そちらの方がいいかなと思うところもある。しかし、部活動改革全体をスポーツ推進として学校教育と一緒にやっていくというのであれば、この言葉でもいいと思う。言葉の使い方で少し意味合いが変わってくると思う。今、学校でも土日の部活動を地域移行するということで進めているが、今の移行の形がいいのかどうかというのも、迷いながら進めているところもある。今後ご指導いただければと思う。

○委員

この推進計画の見直しは、非常に重要なことだと思うので、時間がすごい大事になる。例えば、酒田市総合計画、それから教育委員会の振興計画、県のスポーツ推進計画などのスポーツに関する部分を抜粋して、委員の皆さんから見ていただくことが必要だと思う。参酌するということがだが、どういう観点で比較検討なり、今後の見直しをしていくのかという話になる。最低限、県のスポーツ推進計画、酒田市教育振興計画のスポーツの部分との整合性がないと、ただ単に字句を直しただけでは、大した見直しでないと感じる。先ほど、この審議会の新規委員の方から頂いた名刺に「ウェルビーイング」と書いてあった。これは、県のスポーツ推進計画に出てくるし、これからはこれが目玉だと思う。スポーツを通して健康で体力をつけるというだけでなく、社会的にも大事ということを目玉として持っていくとか、もっともっと深める必要があると思う。やはり一番の根本は酒田市総合計画である。その総合計画の中にスポーツの部分が出てきて、そして県のものがあって、酒田市教育委員会の考え方もあって、そしてスポーツ推進計画を見直していくというスタンスでないと、今説明あったものだと、あまりにも簡単すぎるなという感じがする。

⇒事務局

・委員も総合計画をご覧になっていると思うが、酒田市総合計画にはそれほど細かいところまでは書いていない。市教育振興基本計画も、どちらかというとスポーツ振興課の部分というのは、アクションプラン的な部分がこの計画になるので、一番細かく書いているのは市スポーツ推進計画である。令和11年度までの間で、あと4年くらいしかない中で、冊子をお持ちだと思うが、その冊子全体の素案をこれから皆様方に提示していく。これから関係団体の理事会やスポーツ協会に出していくのは、あくまでもこの推進項目までの変わった部分だけなので、意見をいただいて、細かい部分はこれから皆様方に素案という形でお示しして、その意見を9月に集約する流れになる。

・今回は項目しか出ていないが、この項目を主にしていくわけではない。あくまでも、こういった内容のものをこれから作り込むというような話なので、それは当然、県の計画とか国の計画の文言をいただきながら、細かいところは直していく。ただ、中間見直しなので、大きい変更は考えてはいない。方向的には、県の考え方、国の考え方に沿った形で進めていきたいと思っており、20ページ近い冊子の部分を全部直した上で、写真等を直した上で、それをお示しさせていただく。

・8月、9月に原案をお示しして、意見があれば反映して、10月の第2回目の審議会でお示

しをする。概要版として、例えば A4 版または A3 版で 1 枚作るし、細かいものも、紙ベースで作るかデータになるか、今の推進計画そのものを作り込んで、素案としてお示しする。

⇒委員

では、今日は出たものについて、思ったことを言えればいいのか。

⇒事務局

こういう項目も必要なんじゃないかだとか、国の計画、県の計画を今の推進計画の中で足りない部分、あるいは変更しなければならない部分を、調整して検討した上での赤字の部分、今の推進計画から変えた部分である。当然変えた赤い部分は文言も変わる。

⇒委員

指導者養成の部分がなくなった。指導者関係がどこにも出ていないようだ。今の推進計画には指導者・審判員の育成・養成という項目があるが、新しい見直し案の中には、指導者という言葉が一つもない。それはどこに入ってくるのか。

⇒事務局

予定としては、基本目標Ⅱ（２）②スポーツ人材の活躍の促進のところ、競技スポーツを支える人材の育成、指導者、審判員、トレーナー等の育成の部分になる。

⇒委員

・一番の部分については、先ほどあったように、ウェルビーイングという言葉を入れる必要があるのかなと思う。これからのスポーツのあり方、スポーツの持つ力という考え方でいくと、傾向だとか体力だけでなく社会的にも、そういう言葉が他のところに出てくるのでいいと思う。

・（３）（４）に、「スポーツを通じた」とあるが、私の感覚では「通した」という言葉のほうが、分かりやすい。それから、総合型地域スポーツクラブについては、推進だけでなく、これは支援も必要かと思う。支援という言葉強化する必要があるのかなと思った。

・基本目標Ⅱのところ、トップレベルのスポーツに触れるというところでは、合宿の誘致も考えられると思うのだが、この辺も検討いただくところなのか。大学であるとか、企業チームであるとか、トップチームの合宿を誘致するというところなども入ってきてはどうなのか。あくまでもこれは意見なので、お願いしたいと思う。

・基本目標Ⅲの部分で「プロスポーツのスポーツ教室等の開催」とあるが、これは言葉を変えたと地域貢献活動での支援。県計画を見ると、例えばスポーツ教室だけではなく、田植えもやっていた。そのようなことを考えると、プロスポーツはただスポーツ教室をやればいいのかと捉えやすい。そうではなく、色々な地域の中に参加していくというようなことを考えると、地域活動、地域貢献活動というような、そんな言葉もあつていいのかと思う。

⇒委員

まず、今の内容を聞いていただいて、８月の際に紙面で我々には来る。そこを見て、なおかつまだ意見があれば出していただいて、１０月の２回目の審議会のときに、また検討していただく。時間は、１時間半ではなくて２時間半くらいとってもらったほうが良い。１１年の計画で、今６年が経過した。そこで見直したときに、６年間でかなり環境・状況が変わっている。急がず、年度にこだわらずに良いものを作っていこうとしたわけだから、時間をかけて、それぞれの皆さんの意見を聞きながら、作っていくような形にしていければと思う。

○委員

基本方針のところであるが、今、県や国の方針を踏まえてとあった。生涯にわたる豊かなスポーツライフという部分では、「する」「みる」「ささえる」に「しる」という言葉がもう一つあるのだが、なぜ酒田市は「しる」という言葉がないのか。

⇒事務局

この基本方針については、教育振興基本計画に合わせて中間見直しで変えたところである。5年後はまた変わると思うが、教育振興基本計画に合わせたということである。

＜酒田市体育施設整備方針の中間見直しについて【資料 2-5】＞

※酒田市体育施設整備方針については、公開することで審議を妨げる恐れがあることから、資料及び議事内容を非公開とする。

4. その他（進行：事務局）

（1）令和 6 年度スポーツ振興課所管施設の利用状況【資料 3】

（資料に基づき、事務局説明）

（2）令和 6 年度「酒田市のスポーツの推進に関する市民アンケート調査」の概要【資料 4】

（資料に基づき、事務局説明）

【質疑応答】（1）（2）ともになし

（3）その他

＜中学校部活動改革について【当日配布資料】＞

（資料に基づき、学校教育課説明）

※昨年度まではスポーツ推進審議会の中で、部活動の地域移行について検討・報告を行ってきたが、令和 7 年度に中学校部活動改革推進協議会を立ち上げたため、今後はそちらで協議していく旨の報告あり。

【質疑応答】

○委員

少し前にNHKで、青森県むつ市での取り組みが出ていたのだが、皆さんご覧になられたか。むつ市では、すごい補助をしている。結局、課題は指導者の確保と、生徒の移動であった。私の聞き間違いかも知れないが、この事業に対して億単位で補助している。今、酒田市は頑張ってきているわけだが、やはり市からの助成がないと、なかなか大変だと思う。財政課の方がせっかくいらしているので、ぜひ、この中学校の部活動の地域移行・展開については、市を挙げてバックアップしてほしい。

＜さつきラン&ウォークについて＞

○事務局

最後に、協議の資料 1-1 の中で、さつきラン&ウォークのお話があった。皆さんからも是非このアプリを活用いただきたいと思うので紹介する。10 月にオクトーバーラン&ウォー

クがあり、市を挙げて取り組んでいる事業である。気軽に運動ができるアプリであるので、
よろしくお願いします。

5. 閉 会（事務局）

以上